

鳥取大学研究成果リポジトリ

Tottori University research result repository

タイトル Title	「一式飾り」探訪記：第12回 山間の町のともしび
著者 Author(s)	Takahashi, Kenji
掲載誌・巻号・ページ Citation	島根日日新聞：5 - 5
刊行日 Issue Date	2018-07-04
資源タイプ Resource Type	論文 / Article
版区分 Resource Version	出版社版 / Publisher
権利 Rights	注があるものを除き、この著作物は日本国著作権法により保護されています。 / This work is protected under Japanese Copyright Law unless otherwise noted.
DOI	
URL	http://repository.lib.tottori-u.ac.jp/6239

「一式飾り」探訪記

鳥取大学地域学部准教授 高橋 健司

第12回

ちなみに20

の名産の算盤一式を使った作品が毎年飾られている。

を使って表現した鶏冠や足が印象的だった。

17年の算盤一式の作品は干支の「尾長鶏」。赤や黄色の色鮮やかなプラスチック製の算盤

横田では算盤一式のほかに

も、竹製品一式や金物一式、

陶器一式などの作品が見られる。陶器一式が主流の鳥根の

「一式飾り」の中では珍しい、多様な道具が用いられている。

今年は7月14、15日に「大市夏祭り」が開催されるので、ぜひ足を運んでご覧になっていただきたい。陶器一式の作品しかご存じない方は驚かれると思う。

横田の「一式飾り」の由来は長らく不明であったが、昔の「一式飾り」を写した一枚の写真が見つかった。そこには漆器一式か、あるいは食器一式を用いた「恵比須鯛」の作品が写っていた。そして裏面に「昭和25年最初の一式飾り」と書かれていた。

横田にお住いの年配の方に話を伺うと、横田で最初に飾られた「恵比須鯛」は、平田から人を招いて指導を仰いだとのことであった。

昔の「平田一式飾り」の写真を見ると、現在のようないろいろな素材を用いていたことが分かる。横田の「一式飾り」は、平田の古い様式を伝えているのかもしれない。ところが横田では、「一式飾り」の作品数が年々減少している。4年前は9点あった作品が、昨年は7点であった。

地域の方に話を伺うと、横田の人口は減り続け、作品を制作する常会の数も減っているとのことである。横田と同様、山間に位置する雲南市の掛合でも、「掛合一式飾り」の作品数が減っている。以前は飾られていた中学生の作品が見られなくなった。伝統の先行きに不安を感じる。かつて鳥取では南部町のほかにも「一式飾り」が伝わる地域があった。県東部の山間にある智頭町である。智頭の「一式飾り」は家屋に飾るだけではなく、男児が台車に乗せて引き回すという珍しいものであったが、戦後になって伝統が途絶えてしまった。

山間の町のともしび

まずは写真をご覧いただきたい。線路の上を列車が走っている。奥には高い鉄橋も見える。作品名は「祝 木次線開業100年 新型トロッコ列車走る」とある。

これは2016年7月に奥出雲町の横田で開催された「大市夏祭り」の作品である。大市下組の皆さんが制作した。この作品が何でできているか、お分かりになるだろうか。作品に用いているのは、なんと算盤(そろばん)一式。こんな珍しい「一式飾り」が奥出雲で見られることを、鳥根の方でもご存じないのではないだろうか。

私は横田にも「一式飾り」があると聞いて、2014年に初めて訪ねて以来、毎年調査に訪れている。横田は中国山地の山間に位置し、算盤の一大産地として知られた町である。そ



うか。

このままでは山間の町の

「一式飾り」のともしびは消えてしまいかもしれない。手遅れになる前に、対策を講じる必要があるのではないだろうか。